

7. 定時撮影でとらえた爆発噴煙 2019.7.28_17:54

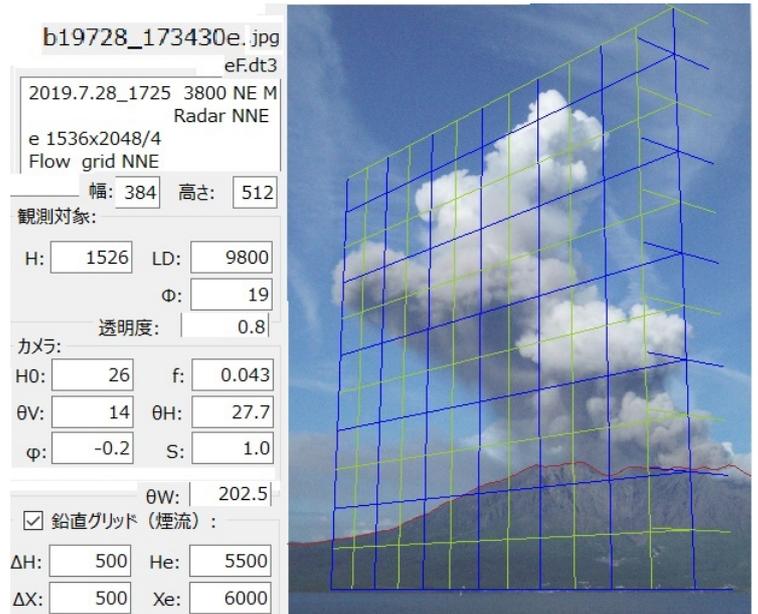
気象台のリストでは、17:25に南岳火口から噴煙高度3800mの爆発があり流向NEとある。B点からの1枚を次に示す。続いて17:54にも南岳火口から噴煙高度3500mの爆発があり流向NEとある。この噴煙は発達した状態が K, T の定時撮影で記録された。

7-1. B点から見た17:25の爆発噴煙

撮影は南岳火口からの爆発噴煙が上昇から移流に移った頃と思われる、流向はレーダ画像のようにNNEと思われる。右図の煙流グリッドは、NNEへ向かう $\theta W=202.5^\circ$ とした。



[B_173430e](#)



Parameter set and fit [B_173430eF](#) Flow by $WD=180+22.5$

7-2. 錦江台と垂水からのWebCamの18時撮影

2つのWebCam画像は6-3で述べた標準的処理、すなわちK18は解析の対象にする中央部 c 600x300の右下部 rd 300x240を、T18は640x480をそのまま示す。17:54の爆発噴煙と共に、その前の17:25爆発後に続いた灰煙放出の残滓が見られ、その流向を示している。



[K_18crd](#)

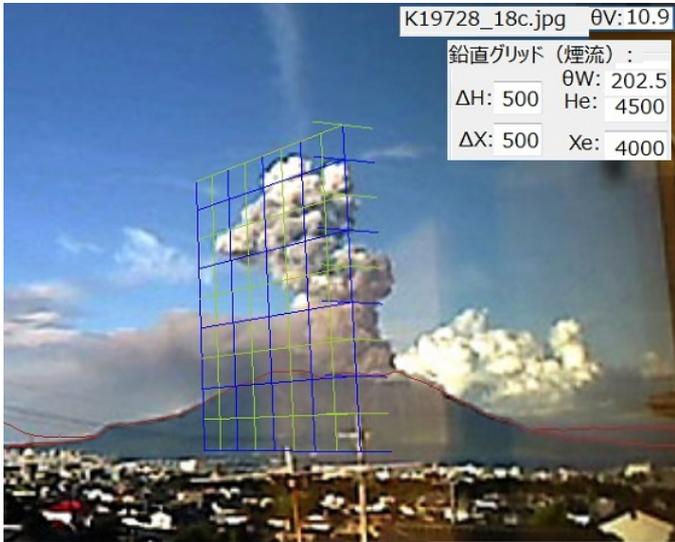


[T_18](#)

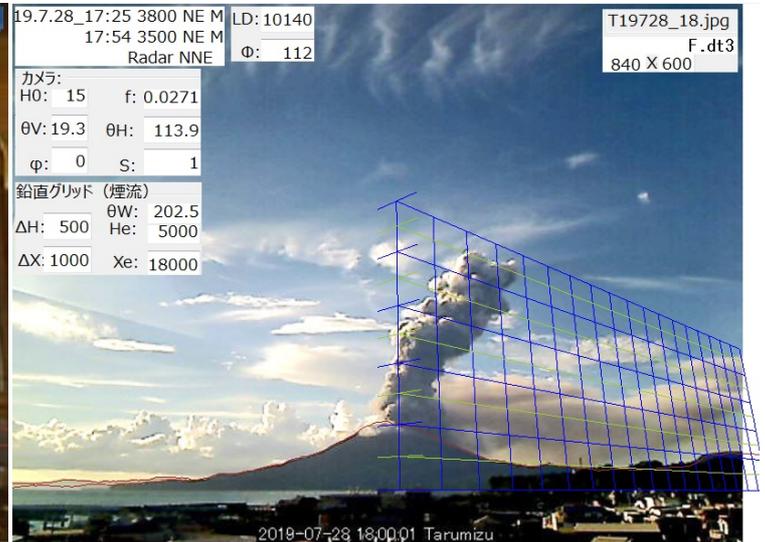
7-3. WebCam画像の解析

並んだ K, Tの図の煙流グリッドは、7-1と同じくNNEへ向かう $\theta W=202.5^\circ$ とした。煙流グリッドは前の爆発の流向に沿っているようであるが、新しい爆発噴煙柱の上部は2つの煙流グリッドで異なる。さらに一致するまで θW を調整して高度を求める必要がある。

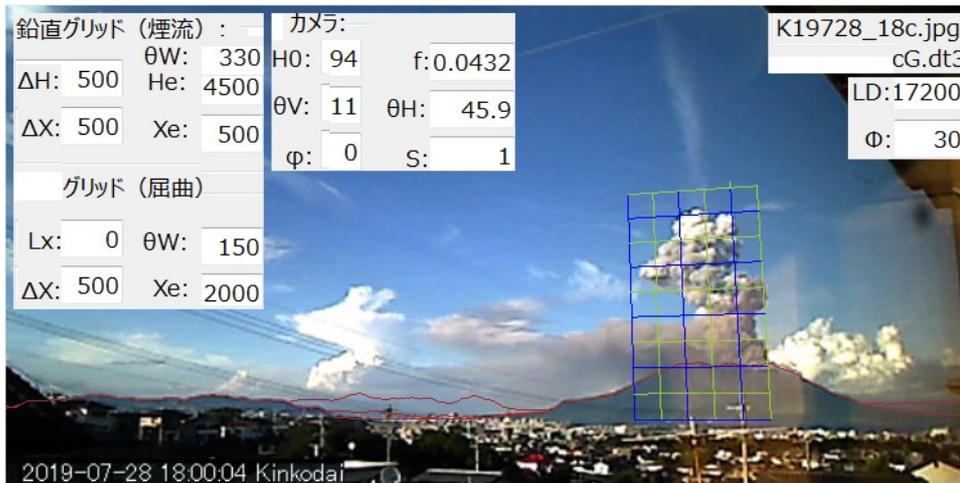
最後の図はK18の中央部全体に対する直交グリッドである。



[K_18cFrd](#)



[T_18F](#)



[K_18cG](#)